

くろさきレター 笑顔



鳴門市 黒崎小学校 校長 猪子 研司
No.7 令和3年11月1日(月)



運動会ありがとうございました



10月23日(土)に、令和3年度黒崎幼小秋季運動会を開催いたしました。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催期日を延期し、規模を縮小した形での実施となりました。そのような中、「黒崎オリンピックみんな一緒に 金メダル」をスローガンに、会場のすべての方々の心が一つに結ばれた運動会でした。

当日は、それまでの頑張りを全て発揮するように、子どもたちの表情も真剣で、生き生きと輝いていました。最後まで力を出しきった競技、責任を果たした係の仕事、温かい拍手など、多くの場面から感動を味わうことができました。子どもたちはこの運動会を通して、心を一つにして互いに協力し合うことや頑張ることの大切さを学んだことと思います。

このような素敵な運動会を実施することができたのは、子どもたちの頑張りはもちろんですが、たくさんの方々からの力強い支えがあったからです。感染症対策を講じながら、温かい拍手と惜しみない声援を送ってくださったみなさま。綿密な準備と、きめ細かなお手伝いをしてくださった保護者のみなさま。たくさんの方々に支えていただいたからこそ、無事開催することができました。教職員一同、心から感謝申しあげます。どうもありがとうございました。

腰塚隼(こしづか はやと)さんの『命の授業』5つの誓い

10月の朝会で子どもたちに腰塚隼(こしづか はやと)さんの「『命の授業』5つの誓い」についてお話をしました。腰塚さんは、1965年神奈川県生まれ 元中学校の体育の先生です。スキーで転倒して首の骨を折り、二度と歩くことは無理だと医者に宣告されますが、家族や友人、教え子たちの励ましやリハビリによって奇跡的な回復を見せ、復帰された方です。腰塚さんの「『命の授業』5つの誓い」を紹介します。

「口」は、人を励ます言葉や感謝の言葉を使うために使おう

「耳」は、人の言葉を最後まで聞いてあげるために使おう。

「目」は、人のよいところを見るために使おう。

「手足」は、人を助けるために使おう。

「心」は、人の痛みが分かるために使おう。

「この5つの誓い」を目にしたとき私自身は、口、耳、目、手足、心をどのように使っているだろうか、と考えてしまいました。不満等言うことがないか、人の言葉を最後まで聞いているか、人の欠点に目がいていないか、自分のためだけに手足を使っているのではないか、人のことを考えずに、自分の事だけ考えていないか。腰塚さんの5つの誓いに少しでも近づけるといいな、そう思ったところです。

